

今日は日本人の若者の「自己肯定感」の低さについて話したいと思います。内閣府が実施した調査で日本の若者は、「自分自身に満足している」「自分に長所がある」と答えた割合が、韓国・アメリカ・イギリス・ドイツ・フランス・スウェーデンの若者に比べて断トツビリなのです。同時に聞かれた質問で「ボランティア活動に興味がありますか」「将来海外留学したいですか」という問いにも、「はい」と答えた割合は日本人の若者は断然低いのです。これらの結果を皆さんはどう考えますか。

私はこれらの結果は密接に関係していると思います。ボランティアをすれば日常接することのない人から「ありがとう」と言われる経験が増えていきます。「こんな自分でも社会の役に立つのだな」と思える機会が幾重にも積み重なるのですね。そうしているうちに自然と自分に自信がつき、自分自身を肯定的に、ポジティブにとらえられるようになります。そうなる」と「どら、ちやうと海外にでも行つて日常と違う世界を見て、自分を試してみようかな」などと思える余裕も出てくると思うのです。どうでしょうか。

本校は本土や他の離島の生徒と比べて、ボランティアに参加してくれる生徒の割合は比較的高いと感じています。詳細なデータを取ったわけではありませんし肌感覚なのですが、これは事実だと思います。これはとてもいい傾向だと思うのですね。昨年十一月に皆さんが行った豪雨災害後の復旧作業においても、多くの関係機関から感謝の言葉を学校としてもらいました。これ以外にも与論町の様々な行事における補助員や海岸清掃など、地域のために自分の時間を捧げる皆さんには頭が下がります。

また、本校は海外とつながる様々な機会に恵まれていることも忘れてはいけません。まずは修学旅行の台湾です。修学旅行では観光地を回るのももちろんのこと、現地の学生さんとの交流もあるので、こちら側が何を知りたいか、どんなことを感じたかなど、明確な目的を持って訪れれば、リアルでディープな台湾を体験できることは間違いありません。こちらからの関わり方一つで、得られる経験は大きく変わります。

授業においても、昨年に引き続き、二年生ではグローバルクラスルーム事業の申請を県に出しています。採用されれば海外の生徒と交流する貴重な機会になるはずです。また今年は、与論町にイギリスから学生が一人、数ヶ月間ホームステイのために来日する予定で、本校に通学することになっています。積極的にコミュニケーションを図れば、直接異文化に触れることができます。これらの機会は、皆さんにとって自分をプラス方向に成長させるチャンスがたくさんあるということでもあります。同時に、コミュニケーションを図りながら、自分もやればできるのだという小さな成功体験を積み重ねることで、自己肯定感も高まるのではないのでしょうか。

留学などを通して、全く違う文化・価値観のなかで生活すると、自分が世界の中では他と異なった価値観を持つちっぽけな一個人にすぎないということがわかります。そうすると異文化を否定するのではなく、お互いの違いを尊重しながら、何とかうまく付き合っていけばいいのだと自然に感じるようになるのです。そうすると日本で生活していた時の狭い人間関係の中でいちいち気になるのです。気持ちが一気に軽くなつてきます。家と学校を往復する狭い世界の日常の中で、悩んだりこだわったりしていることも、もつと広い世界に出て、自分とは異なる価値観を持つ人々と交わることで、大した問題ではないと感じられるようになるのです。皆さんにも今のうちにできるだけ多くこのような体験を積んでほしいのです。チャンスがあればどんな外の世界に飛び出してください。

私も今から二十五年前、イギリスに半年間留学したのですが、勉強したことそのものはもちろん貴重な財産になっていますが、そのときに趣味になったウォーキングで、三百六十度視界を遮るもののない広大な大地を一人で黙々と歩く体験をしたときに、自分が日々悩んできたことの小ささを痛感し、心のわだかまりやモヤモヤが一気に晴れ渡る経験をしました。今でも与論の美しい風景を眺めながらウォーキングすることが趣味になっているのもそのためです。そして今は、絶対に死ぬまでもう一度イギリスを訪問し、広大な大地をウォーキングしながら心の洗濯をすることが日常の仕事のモチベーションにもなっています。

人間って案外と単純なことで心をポジティブにすることができるとは覚えておいてください。まだ十五年から十八年くらいしか生きていない皆さんに、早々と人生をネガティブに捉えてほしくはないのです。逆に皆さんにはこれから体験すべきことがたくさんあつて、まだ出会っていないけれど、人生の師となるような人との出会いがこれからたくさんあるのだということも楽しみにして、日々の生活を送ってほしいと思います。ボランティアや異文化との交流を積極的に図りながら、自分もまんざらな人間ではないということに気づけば、自己肯定感も高まってくるはずですよ。